令和４年度 第１回 天竜川水系流域委員会

議事要旨

日　時：令和４年１１月１日（火曜日）１０：００～１２：００
場　所：飯田シルクホテル、WEB 形式併用

1.　開会

開会挨拶（中部地方整備局　天竜川上流河川事務長）

2.　挨拶

委員長挨拶

3.　議事

(1)　天竜川水系流域委員会規約改正について（資料-１）

● 規約（改正案）について、了承された。

(2)　令和３年度第１回流域委員会での指摘事項とその対応（資料-２）

・ 指摘事項とその対応の積み重ねが重要である。P3 に記載があるように、進捗状況の点検や事業評価の議事の繰り返しだけでなく、様々な観点から、流域委員会や整備計画の軸に合わせて検討し、議論できるようにしていただきたい。
・ 「令和３年度第１回委員会（R3.3.10 開催）」については、（R4.3.10 開催）に修正すること。

● 令和３年度第１回流域委員会での指摘事項とその対応について、了承された。

(3)　天竜川水系河川整備計画の進捗状況と点検（資料-３）

・ ｐ15 に天竜川は狭窄部が多く流量の制御が困難な河川であり、特に、小渋川や三峰川のような大きな支川の治水対策を進めていく必要があると感じている。また、美和ダム建設以降、相当な土砂堆積が進んでいるため、三峰川上流部での治水対策が必要ではないか。
⇒（事務局回答）今後の治水対策については、今後の委員会開催予定の資料で説明する。
・ 現在の農業用水の基本的な考え方は、稲作を中心とした利水の考え方である。現在、慣行水利権から許可水利権に変更され、水利権の許可権限は国交省が持ち、農業に関する指導は農水省が行っている。近年、稲作からより収益性の高い施設園芸への転換がすすんでおり、水利用の状況に変化が生じている。農業用の利水という問題を考えていただきたい。

⇒（事務局回答）水利用の変化も含め、許可水量の更新について速やかに審査するように努めていきたい。

・ 河道内樹木（特に、ハリエンジュ）の伐採を実施しているが、ハリエンジュは伐採しても萌芽率が高く、10 年後には再繁茂してしまう。今後は、伐採と同時に伐根する考えで取り組んでいただきたい。
⇒（事務局回答）ハリエンジュの再繁茂については認識しており、後で説明する自然再生事業の中でも伐根を実施するなどの対策を進めている。今後、再萌芽の防止に向けて試験施工を実施していきたい。

・ 計画の進捗について、河道掘削と樹木管理は、再堆積と再繁茂と常にセットになる。したがって、計画の進捗と維持管理との連携も重要なポイントである。改修効果の評価については、進捗率という観点以外でも、流下能力として現状を把握し続けることが重要である。
⇒（事務局回答）流下能力は、毎年工事等の最新の横断図を反映し把握している。流下能力が低下した箇所は再堆積箇所と位置付け、優先順位を設定しながら維持掘削を進めている。樹木再繁茂対策として、天竜川下流では伐根を基本とし、地盤の切下げや踏み荒らし等の対策も検討中である。

・ 治水事業の進捗では、実施した工事内容だけでなく、現在の河道の流下能力の状態や施工箇所における危険度の軽減状況などの説明が重要である。
・ 整備計画の進捗の確認や、効果を評価する際には、適切な維持管理の評価も必要である。

・ p28 について近年は生物分類が進んでおり、類の表記については、整備計画策定時と名前が変わっている生物も多い。今後の検証のためにも正確に示しておく必要がある（スナヤツメ類の表記、アマゴ・サツキマスは同じ種、ヤマゴを示した場合はイワナを記載するべき、イワナ類・チワラスボ類の表記、等についての確認）。

・ p26 について天竜川上流（三峰川合流点下流）の R2、R3 年の SS が高い傾向について、美和ダムの排砂バイパスの影響はないか。また、SS の値はいつ時点の値なのか。
⇒（事務局回答）美和ダム土砂バイパスは R2 年以前から運用しており、バイパスによる影響であると考えていない。R2 年は長雨の影響、R3 年は大きな出水による攪乱による影響であると考えている。SS の値については年間の平均値を示している。

・ 今年の台風 15 号では静岡市、浜松市で非常に強い降雨強度の降雨が発生した。近年、雨の降り方が変化しているため、短時間の強雨が集中的に天竜川流域で発生した時の現行計画への影響を評価しておいた方が良い。
また、近年の豪雨被害では流木による被害が多数報告されている。台風 15 号でも天竜川の支川二俣川で流木が橋桁に詰まり越水被害が生じている。現計画には、流木による影響は含まれていないが、今後議論していただきたい。

⇒（事務局回答）台風 15 号では天竜川では大きな被害は生じていない。現在、気候変動を踏まえた現行計画の見直し検討を進めている。また、流域治水協議会の中では、流域住民と連携して、流域タイムラインの見直し等の取組を進めている。流木対策についても、林野庁などを含めて、上下流連携して取組を検討していきたい。

・ p28 について、子供と川の生物観察をしている中で、カワムツが近年急激に増加しており、それに伴いアブラハヤが減少している。カワムツが重要種として挙げられている意味合いは。
⇒（事務所回答）本資料については確認種数のみの記載であるため、今後、確認数の経年変化に関する情報も整理し提示していきたい。
⇒カワムツは、日本の分布の東限が静岡県にあり、要注目種という位置づけで天竜川の重要種に設定されている。カワムツとアブラハヤは、大河川では上層・下層にすみ分けるが、小河川ではアブラハヤはカワムツに追いやられる傾向にある。
・ 近年の温暖化による影響について、土砂災害の頻度と洪水の関係、地質との関係に関する情報があれば教えていただきたい。
⇒（事務局回答）今後、気候変動により気温が 2℃上昇し、降雨規模、頻度が増加することが想定されている。今後、流域委員会の中でもしっかり御審議いただけるように準備したい。

・ 気候変動は、100 年後の長期的な影響としてだけでなく、すでに事態が起こっていることに対してどう対応していくかについて、天竜川流域としてどう捉えていくかをしっかり議論できるように準備していただきたい。

・ 事前放流は、現計画策定以降に策定されたものであり、計画策定以降の新しい河川管理に関する事項についても、効果や課題を含めて報告していただきたい。

・ イワナ類は、ヤマトイワナとニッコウイワナの 2 種類生息している。カワムツは、伊那地区より上流域まで生息が確認されている。毎年、ザザムシ漁（虫踏み漁）が実施されるが、R4 年度当初は砂を多く含んでおり商品にならなかったと、漁師の方から聞いている。
・ 水質に関して、河川ごみが海洋ごみに関係すると言われている。マイクロプラスチック等のごみ問題の視点に関しても、流域委員会で検討していただきたい。
⇒（事務所回答）ごみ問題に関しても情報発信を行っていきたい。また、水質については、水生生物調査を通して子供たちに啓蒙活動を実施している。

● 天竜川水系河川整備計画の進捗状況と点検について、了承された。

(4) 天竜川総合水系環境整備事業（資料-４）

・ かわらんべでは、子供たちとイカルチドリ、コチドリ等を観察しているが、今後の樹林化の進行や砂礫河原の減少の影響で、イカルチドリ、コチドリの減少を心配している。

⇒（事務局回答）自然再生事業では、再繁茂を抑制するために、冠水頻度が上がるように、また河床の礫が移動しやすいように砂州を切り下げ、維持できるように進めている。しかしながら、その効果は、出水の生起状況にも左右されることから、日々の巡視や河川水辺の国勢調査によって状況を把握していく。

・ 外来植物の種数は頭打ちとなったが、外来植物の比率が増加していることに関しては、自然再生事業による影響があるのかもしれない。河原の植生は、水域と陸域の推移帯であり、生物が非常に多様な場である。樹林帯を削ることで、連続性が絶たれ、全体の植物の種数が減少したことにつながった可能性もあるため、慎重に検討した方が良い。
⇒（事務所回答）外来植物の比率の経年変化に関しては、事業着手前の状況を示しているが、事業完了後も引き続き、河川水辺の国勢調査や日常の巡視で、状態を把握していく。

● 天竜川水系環境整備事業について、了承された。

4. その他

(1) 今後の委員会開催予定（資料-５）

《今後の委員会開催予定と合わせて、基本方針の見直し検討を先行することを報告》

5. 閉会

閉会あいさつ（中部地方整備局　浜松河川国道事務所長）

以上